

野崎氏叫ぶ  
ホップクラブ夜話番外編、  
そのクラブナイト。



Watching Carefully

取材・文／トライアウト 撮影／畑中勝如





# 「NON世代!!」。

## 飲食業とはかくあるべし。

キリンビール京滋支社の名物営業マン、木村隆氏の音頭により、京都が誇るメジャー飲食業9組織の代表たち——「まんざら亭」木下氏、「イメージム京都」今津氏、「びっくりドンキー」元廣氏、「巴里本舗Peace河原町」野崎氏、「ん」林氏、「厨厨」高橋氏、「迦陵」堀部氏、「うしのほね」嶋本氏、そして紅一点「ダニエルズ」赤松氏——が一つになった「ホップクラブ」。情報交換はもちろん、弊誌で何度も紹介してきたように、地元素材で新メニューの新境地を切り開くこともあれば、寺院や老舗旅館でサービスのなんたるかを学んだことも。この舞台裏の活動こそ、京都の食の「仕掛け」なのだ。

で、今回の活動テーマは、言うなれば「大人の遊び方って何なのよ」になるのか？ 最近どうも多い、オヤジたちのDISCO復権＆「俺たち昔はイケてたんだぜ」的などかネガティブ志向なイベント。アフロ頭のダンサーと70'sのDISCOミュージックが織りなす、俺ら流夜の遊び方。たんなるオヤジたちのストレス発散の場だったのか、はたまた若者に遊びのなんたるかをご教授する場となったのか。オーバー30ageの「ホップクラブ」メンバーがヒップホッパーの楽屋・WORLD[世界]にて提案したかったことも、やはり同じなのか？

だが「NON世代!!」を叫ぶ広報担当・野崎氏の言葉を聞く限り、そうではない。「おもろいもんはおもしろい」。シンプルかつ、ストレートなテーマが、今夜の根底にあったと確信した。俺ら流を「強要」するわけではなく、世代を越えての「共用」。老若男女がすべからく盛り上がる夜…これぞオヤジたちの求める京都の夜の姿。これを飲食に落とし込むとなると、なるほど「うまいもんはうまい」になるわけだ。

## Hop Club Night @WORLD[世界]

A. 「いつもと違う場所で会うのも新鮮やね」と語る「ホップクラブ」広報担当、「巴里本舗Peace河原町」の野崎氏。お店もそういえば「NON世代」 B. 一声かければアレオアレオアレオと集合するホップクラブの面々+α。普段店では会わないかもしれない、まんざらや厨厨の社長やらが、実はこの中に潜んでます C. 台風6号の接近を今か今かと待ちかまえる、このオヤジどもは京都に拠点を置くサーファー・チーム。「でも波乗りできるのはごくごく少数」だとか。ま、カッコが大切です D. やっぱりました。スポンサーガール。今夜は緑のハイネケン、ミエ&マモちゃん。「ビール飲めない人でも飲めるビール」らしい E. いいねえ、このアフロ。今夜のコンセプトを定義する。そして象徴するダンサー&DJのみなさん F. 「スーツが踊るっていいよね、オトナやわ〜」と語るのはαステーションDJの、カワイイ声、キヨビー。「ホップクラブの次は何？何？」何でしょう、野崎さん？ G. こちらもαステーションDJの森夏子氏。昼の顔、夜の顔、ちょっと違うあたりがいいですね。「ホップクラブのみなさん、何でもするし、何でも喋りませ〜」 H. グラフィックデザイナー大田カツヒコ氏。来るなりステージ前でシャンパンをぶちまけてはしゃいでいた。「俺ら世代の動きって、重要やねんな〜」とホップクラブを見て一言 I. キヨビーの足裏をもんでいるノリと自称パーフェクトエステディシャンのサエ（右）。「キレイになれる新メニューをピシッ開発して〜」とのこと